

Q3 学校ボランティアに求められる資質は？

学校ボランティアになりたいのですが、はたしてこんな自分にボランティアが務まるのでしょうか？



ポイント

①子どもや若者に肯定的な感情を抱いていること、②学校の力になりたいと思っていること、③間違いや失敗から学ぶこと、この3点をクリアしていればOKです。

📌 自信がないのが当たり前

「まだ子どものような学生の私が、はたしてちゃんと子どもたちとかかわれるだろうか？」「定年まで会社勤めしか経験のない自分が、学校になじむことができるだろうか？」

初めての経験を前にして自信満々の人なんて、決して多くはありません。そして、それが当たり前です。どちらかと言えば、「私はどんな場面でもだいじょうぶ。私に任せなさい！」という人のほうが心配です。

しかし、学校ボランティアになるためには、次の3つのことをクリアしていただきたいと願っています。

1 子どもや若者に肯定的な感情を抱いていること

1つめは、「子どもや若者に対して肯定的な感情を抱けること」です。

ここではあえて、一般に使われる「子どもが好きであること」という言い方ではなく、このような表現を使いました。この2つには微妙な違いがあると思っています。たとえて言うなら、小さい子を見ると思わず近寄って抱きしめたいくなるのは「子どもが好き」な人だと思います。しかし、「肯定的な感情を抱いている」人は、子どもから少し離れてにこにこしながら子どもが遊ぶのを見守っているような人です。

ボランティアに向いているのは、どちらかと言えば後者のような人だと思います。

2 学校の力になりたいと思っていること

学校ボランティアの多くは「子どもの力になりたい」と思っているでしょう。しかし、学校ボランティアとして役に立つためには、子どもが育つ場である「学校」の力になりたい」という思いも必要です。

子どもの立場に立とうとするあまり、学校や教師の指導方針に疑問を抱き、批判的なまなざしを向ける人がいます。しかし大切なのは、学校全体が子どもが育つ場として機能することです。そのためには、学校が子どもだけでなく、教職員も、そしてボランティアのあなたも、ともに育ち合う場であればなりません。

3 間違いや失敗から学べること

初めての体験に間違いや失敗はつきものです。そして、学校は、間違いや失敗から学ぶ場です。

学校にいるすべての大人は、子どもたちにとってモデルとなるべき存在でなければなりません。したがって大切なのは、間違いや失敗をしないことではなく、そのあとでどう対処するかです。

間違いや失敗を注意された時、へこんでしまうのでも反発するのでもなく、指摘してくれたことに感謝し、次はどのように行動すればよいかを考えられる人こそが、子どもたちのモデルとなるべき人なのです。

ワンポイントアドバイス 「レスキュー」と「サポート」

山で遭難した時に助け出してくれるのがレスキュー隊です。学校にもレスキューが必要な場面がないわけではありません。しかし、学校ボランティアに求められるのは、レスキューよりはサポートなのです。

子どもが岩場で転んでしまった時に1人で起き上がるのをそっと見守ったり、山に登れるだけの体力づくりを手助けしたりするのがサポートです。サポートが上手にできるためには、相手に対する信頼、つまり「肯定的な感情を抱いていること」が必要です。